長島選手の銀メダルたたえ祝賀会



バンクーバー五輪のスピードスケート男子500㍍で銀メダルに輝いた長島圭一郎選手（平成17年文理卒＝日本電産サンキョー）をたたえる祝賀会が4月28日、帝国ホテル東京で開かれた＝写真。

スケート部（桜井勇部長）、OB会（山崎善也会長）などの呼びかけで行われ、司会は男子フィギュア元世界王者の佐野稔さん（昭和53年経済卒）、アルベールビル五輪スピードスケート銀の黒岩敏幸さん（平成3年経済卒）、銅の井上純一さん（平成6年文理卒）、さらに長野「金」など五輪4大会で3個のメダルに輝いた清水宏保さん（平成8年文理卒）ら約250人が駆けつけ、五輪選手20人を輩出したスケート部ならではの華やかな顔がそろった。

保体審会長の酒井健夫総長は、所属会社で〝2階級特進〟の処遇を受けたことに触れ「さらにメダル獲得で社長就任を。活躍で日大全体も高揚します」とユーモアに包んで祝辞を贈った。清水さんは「メダルの歴史が引き継がれた。ストーリーを持った記憶に残る選手になってほしい」と激励。これに対して長島選手は「これからの4年もパンパンに（極限まで）頑張ります」と、ソチ五輪に向けて決意を新たにしていた。

冬季五輪で本学関係銀1、入賞3

バンクーバー冬季五輪は日本時間3月1日に閉幕。本学校友の長島圭一郎選手（平成17年文理卒、日本電産サンキョー）がスピードスケート男子500㍍で銀メダルに輝いた。「脚がちぎれてもいい」。思いのこもった激走は、大会前半の日本勢を盛り上げた。この結果、女子フィギュアスケート・浅田真央選手らとともに銀メダル3、銅メダル2の日本勢前進（前回大会金1個、前々回銀1銅1）に大貢献した。

本学にとって長島選手の「銀」は、清水宏保さん（平成8年文理卒）の長野五輪金、ソルトレークシティー銀に続いて「スピードスケートの日大」の伝統をしっかり受け継ぐ快挙だった。

スキー・ノルディック複合個人ノーマルヒルで7位、団体で6位とダブル入賞を果たした小林範仁選手（平成18年経済卒、東京美装）は、個人の距離終盤で「目立ったでしょう」と一時トップに立つなど、日の丸応援団を巻き込むパフォーマンスでも人気者になった。

◆本学関係選手入賞者◆【スケート】▽スピード男子500㍍ ②長島圭一郎（17年文理卒）【スキー】▽距離女子30㌔クラシカル ⑤石田正子（15年文理卒）▽ノルディック複合団体 ⑥小林範仁（18年経済卒）▽ノルディック複合個人ノーマルヒル ⑦小林範仁

宮崎県支部55周年で田中理事長が講演

日本大学校友会宮崎県支部創立55周年記念の講演会が1月23日、宮崎市内のホテルで行われ、田中英壽理事長が講演した＝写真。宮崎在住の校友や宮崎日大学園の教職員ら150人を前に、「21世紀の日本大学の展望～事業会社の設立・日本大学学生村～」の演題で話した。



昨年12月に設立した事業会社「株式会社日本大学事業部」について紹介。「地方からの学生に、寮や学内でのアルバイトなどを提供し、親からの仕送りがなくても勉強を続けられるような仕組みづくりを、将来この事業会社でやりたい」と力強く語った。

春の叙勲（中綬章以上）

◇旭日中綬章
青木久氏。元立川市長。工学部中退。84歳。
◇瑞宝中綬章
浅井正昭氏。名誉教授。大学院文学研究科 医学部卒。80歳。
荒井康夫氏。名誉教授。工学部卒。81歳。
岡野眞臣氏。名誉教授。大学院獣医学研究科卒。79歳。
北川正氏。名誉教授。東大大学院卒。82歳。
船橋渡氏。元国立甲府病院長。医学部卒。76歳。
古田重明氏。元秋田県労働委員。法学部卒。70歳。
岩村秀氏。客員教授。東大大学院卒。75歳。

日本医師会長に本学OB原中氏

日本大学医学部卒業生（昭和41年卒）の原中勝征・茨城県医師会長が4月に行われた日本医師会会長選挙で現職ら2候補を抑えて当選、第18代の会長に就任した。本学OBの日医会長は初めて。任期は平成24年3月31日までの2年間。

原中氏は、本学卒業後、東大医科研内科で臨床・研究。助教授から茨城県の地域医療に転進した。

「KiZUNA」第13号を発行

日大人と母校を結ぶコミュニケーション誌「KiZUNA［絆］」第13号＝写真＝が3月中旬発行になり、約51万人の校友の元に届けられた。

特集のタイトルは「通信教育で新しい人生に チャレンジ&チェンジ」。キャリアアップや第二の人生の出発を支援する場として注目され出した通信教育を取り上げ、本学通信教育部での学びをステップに新しい人生に挑戦した人たちを紹介している。



「世界へはばたけ 日大スポーツ」のコーナーでは、バンクーバー冬季五輪スピードスケートの男子500㍍で銀メダルに輝いた長島圭一郎選手（平成17年文理卒）の快挙を伝えている。

私の学生時代



あやべ・とよこ　昭和41年芸術学部演劇学科卒業。在学中に「あけびの会」を結成して活動を始め、43年からは「影絵グループあけびの会」として無報酬で訪問公演に取り組む。これまでの国内での公演回数は400回以上に上る。平成6年のニュージーランド公演を手始めに、パキスタン、トルコなど海外での公演も十数回に及ぶ。著書に「あけび一座青春記」（自費出版）がある。19年に緑綬褒章受章。20年から芸術学部校友会会長。

辺地の学校を訪ね交流

影絵グループあけびの会代表者　**綾部 東洋子**さん

びっくりです。学科間の垣根のない校舎の造り、映画や放送などの機材はすべて最先端と、すごく変化しましたが、無駄な空間がいっぱいあったーそれがとても大事だったのですが一当時の校舎が私たちにとってはやっぱり懐かしいですね。

私は芸術学部の卒業ですが（3月にキャンパス整備事業が完了して）江古田校舎がまるっきり変わったのには

私は高校演劇の出身で、福岡の高校演劇コンクールで優勝した経験があり、NHK福岡放送劇団に所属して1年間プロと一緒にやっていました。期待を胸に芸術学部に入ったのですが、そんなわけで毎日の授業だけではどうにも物足りない。せっかく自由に使える時間もエネルギーもたっぷりあるのに、大学4年間をこのまま過ごせば後悔すると思ったのです。

ドラマチックなことをやりたかった私は、科で学んだことを生かして子どもたちと触れ合えられれば、という明け方まで公演の準備に追われ、冬の間だけ使われている寄宿舎で寝泊まりし、食事は自炊という生活でした。

といっても私たちは

当時、大きな社会問題になっていた辺地教育に興味を抱き、男性2人女性2人の仲間を集めてへき地の学校訪問に行きました。単なる慰問じゃなく、その地に数日滞在し、演劇学

年の3学期から取りかかり、その年の9月に10日間の日程で行ったのが最初でした。人形劇やコント、幻灯などの上演は半日程度。あとは「体育記録会」を手伝ったり、5人が別々

遊び暮らしている感じで、あっという間に最終日が来て、全校生徒が私たちのために校歌を歌ってくれたときは「そんな大事な学校行事だったんだ、これは」と驚きと感動で胸がいっぱいになった思い出があります。

翌年からは仲間が増え、男女7人でまた玉川へ。影絵や劇の公演をメーンに、ほかの時間は子どもたちと遊んで過ごすということを4年まで続けたのですが、2年目からは村の人たちにも溶け込み、民家に泊めてもらえるようにもなりました。

この活動で、おカネでは得られないものを得ました。それは言葉では言い表せない、強いていえば、おカネ以外で皆が求めているものは何か、ということです。本当の宝物は目には見えないのです。

卒業後、「影絵グループあけびの会」として、全国の幼稚園、保育園、障害児施設などを訪ね、無報酬でボランティア公演をしてきましたが、あれから47年、今は傘下に10グループとスケールは変わっても、やっていることはあのころとほとんど同じです。

今の学生さんは早くから就職の準備をしなければならず大変なのは知っていますが、自由に時間が使える学生だからこそ出来ることがある。世界一周とかなんでもいい。大きな夢を追いかけ、実現してほしいですね。（談）

校友会支部紹介

独自の催し物を企画 学祖訪ねる旅も実施

熊本県支部

熊本県支部が発足して半世紀以上が経過し、歴代の支部長をはじめ多くの校友の皆さまのご指導と、温かいお力添えにより、今日まで発展を続けてまいりました。

熊本県支部は、8学部別部会、5職域別部会、4地域別部会および務局会議は必要に応じて行っています。

5年ごとに校友会名簿を発行し、校友による広告収入を財源にして、5年間の運営実費をまかなっています。名簿には約2200名の校友が掲載されています。

県支部独自の企画として、木 和秀）

過去には日本大学吹奏楽研究会の学生による演奏会および市中パレードや大型バスを貸し切って、山口県萩市の学祖・山田顕義先生の生誕の地として整備されている「顕義園」に、「学祖をたずねての旅」を実施したこともありました。

昭和40年代、日本大学は首都圏出身者の割合が25%、それ以外の地域出身者が75%と聞いています。

現在は、その比率が逆転し、地方からは大変狭き門となっています。地方出身学生の減少は、私たち県支部を運営する者にとっては、会員数や会費の減少に直結し、地方校友会の維持運営にも大きく影響します。

これからも、ますます首都圏以外の地域からも学生を集めていただくよう、大学にもご考慮いただきたいと思っております。

（熊本県支部長 梨子



平成21年度熊本県支部総会